



利 2  
第 56



# 玉露序

昔はうはりてぬるまゝに人のよろづ  
乃言の葉もやうくに花をみ川の  
まきぬるまゝといふ米乃はら山さ  
にもと次河はたふ同じき物ら。は  
ふのあらばあまのちるは河もい茂  
同じもてはうひぎほのつとれはた。

○玉露序

○序一

歌河文詞は集う能条此物語の能と  
 のことりと。其井乃よきにきこひ  
 て。一松一河もやうあらばさばまきり。  
 ちうぬちのうぬ島まきよならてハ  
 いよくまきりまきりやし其言の  
 葉たよやうねるはるまきねるとうち  
 ましきりてよみ出る歌よもつき出る

文よも若草やえぬたよもあき多  
 うりまきりそむく言の葉の道は  
 いまきりまきりやうねるまきり  
 らひまきりまきり今の子のや  
 うに。河のさとねあやしきまきり  
 ぐはて。歌文のまきりと好むいぬ  
 花鳥のまきりまきり。それい









とむやあふ 日

そけふみ 日

はつのも 日

そとと はらのゆゑ

をの面 日

とがそ 日

ほくろ火 はらのゆゑ

どひよ家 はらのゆゑ

あま茶して 日

とらう はらのゆゑ

林よらふ 光やうく

さぐねる はらのゆゑ

天が下 日

おし風 日

せりせ をりせ 日

みぎり 日

こはち 日

喜をむく 日

中に 日

今もか あふもか 日

あやきあふ 日

ちとあま 日

みしつ河ま あふのまふい 日

嵐のい 日

り 日

い 日

あふ はらのゆゑ

あふ 日

あふ 日

文の河ま 日

文の抄目録

そとと はらのゆゑ

りのね 日

あ 日

人の名を 日

あ 日

大君 日

い 日

二つの 日

あ 日

あ 日

あ 日

あ 日



シラニニシ  
日

ア  
日

ア  
日

川  
日

ア  
日

ア  
日

ア  
日

ア  
日

ア  
日

ア  
日

シ  
日

ア  
日

道  
日

ア  
日

ア  
日

ア  
日

ア  
日

ア  
日

ア  
日

ア  
日

ア  
日

ア  
日

ア  
日

ア  
日

ア  
日

時代のゆらゆら  
日

ア  
日

ア  
日

ア  
日

文と文とのゆらゆら  
日

文がら文  
日



らで。花又ちお紫とつふさおとばや。りりかゝるはざらじ。

何の類の下おやりりばかくる。

なふいふいづつていづくもくがねどの下にかりどさふくことつひ  
おとそハあふういづつていづくもくがねどつづきててもかき又申お洞  
まへさうもかくしよめほつきをかくかりハ今の昔おもきさうい  
係ハハあきさ中お洞をへさうかくかりどさばほりそやりり成  
おくとまへさういづつていづくもくがねどつづきててもかき又申お洞  
どいふべきいづくもくがねどつづきててもかき又申お洞  
いづく年月さうへさういづつていづくもくがねどつづきててもかき又申お洞  
年月をやへさういづつていづくもくがねどつづきててもかき又申お洞  
やち皆むがてしちたのう文を見てるれまわへさういづつていづくもくがねどつづきててもかき又申お洞

小も。おさも文さもよくよみかくと思ひかゝる人も此程りさま  
ぬもハさくわい。但し何ぞいづくもくがねどつづきててもかき又申お洞  
く時をさ下にわかたりつてわい。その下おバふぞやまどやり  
さかくとらさ。こはハ疑ひのやま。わいづつていづくもくがねどつづきててもかき又申お洞  
どいふはトも道バ別すも又いづくもくがねどつづきててもかき又申お洞  
やち疑ひとらさ。わいづつていづくもくがねどつづきててもかき又申お洞  
やまほとわさ。

少くもさ上の格

さびさういづつていづくもくがねどつづきててもかき又申お洞  
つづきていづつていづくもくがねどつづきててもかき又申お洞  
いづつていづくもくがねどつづきててもかき又申お洞









又つゝめらといふまゝふよきまゝといひてよれ取らう  
といひてよれ取らうと物も近き母人をもつゝつゝのこまをま  
らびみどりなる中にほほとつゝまき成めるといふまのほふお  
まじ大く神事な事なまづといふまをばつゝげがぬくかて  
皆めらといふ又つゝ或る人といひてよれ取をも今の人多く  
ハ意味をまづほほとつゝおほふおんまほまをほほ  
ふよく見かみてその例まゝまき

そいふそへる

ととへを成ふおきそいひおきまゝをどつゝまのあのおのづゝか  
そいひまゝとて後ろいへた家が自身へおきまゝへおきまゝをどつゝま  
他の物のあまをかきまゝなまゝとておのあまを物も近き人をま

く此まおぬくそいひといふま成まへたつゝまゝとつゝまをまの  
まゝとつゝまおぬくといふまおぬくといふまおぬくといふま  
まゝとつゝまおぬくといふまおぬくといふまおぬくといふま

まがひまがふまがへまがや

ととへをまのまおぬくおのまきまがひおきまがふまがひおぬく  
まがひのづゝまおぬくおぬくまがへまがふおぬくまがひのまが  
まがひのづゝまおぬくおぬくとまがへまがふおぬくまがひのまが

かたつゝかひかへうま

もまへは秋乃まて風の吹りり吹りるまがひのまがひのまがひ  
まがひの吹り吹りまがひのまがひのまがひのまがひのまがひ































まじりていさやどの人もまじりて此もがこころなるにふたがや。まじり  
まじりていさやどの人もまじりて此もがこころなるにふたがや。まじり  
まじりていさやどの人もまじりて此もがこころなるにふたがや。まじり

林小ちのひ 光やまのぐ 塵よまのぐ

神祇のまじりていさやどの人もまじりて此もがこころなるにふたがや。まじり  
まじりていさやどの人もまじりて此もがこころなるにふたがや。まじり  
まじりていさやどの人もまじりて此もがこころなるにふたがや。まじり

老子といふものなり。和光同塵といふより出づる。まじりていさやどの人もまじり  
まじりていさやどの人もまじりて此もがこころなるにふたがや。まじり  
まじりていさやどの人もまじりて此もがこころなるにふたがや。まじり













































いふこと人々を驚かすこと細きう。おどやういふことおれ  
まじりしうりまじりこといふこと。おどやういふこと。おどやう  
物をいふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。

よきこといふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。  
よよりて。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。  
ろし。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。  
し。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。  
し。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。

いふこと人々を驚かすこと細きう。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。  
いふこと人々を驚かすこと細きう。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。

のめく。よよりて。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。  
の後。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。  
おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。  
おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。  
おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。  
おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。  
おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。  
おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。  
おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。  
おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。おどやういふこと。









ても、格、俗、を、わ、く、と、と、ま、う、と、い、は、な、い、強、も、古、の、ま、う、考、へ、て、か、く  
べ、今、の、人、の、文、は、ハ、ラ、ウ、シ、ム、シ、の、む、シ、い、は、い、と、ま、ま、い、と、い、

漢文の文

近世人の文は、ちと、ちと、ハ、ラ、ウ、シ、ハ、漢文のありを好む、ま、く、か、ま、ま、い、と、い、  
ま、ま、い、と、い、は、な、い、と、い、その、ハ、ラ、ウ、シ、ハ、雅文をえざる、か、く、は、お、ま、い、と、い、  
て、つ、い、は、な、い、と、い、ま、ま、い、と、い、ま、ま、い、と、い、ま、ま、い、と、い、の、漢文、の、り、  
の、顛、倒、助、字、は、お、ま、い、と、い、ま、ま、い、と、い、ま、ま、い、と、い、ま、ま、い、と、い、  
ま、ま、い、と、い、ま、ま、い、と、い、ま、ま、い、と、い、ま、ま、い、と、い、  
玉の、軍、書、や、の、物、を、え、て、ハ、ラ、ウ、シ、ハ、漢文、の、り、  
して、俗、人、の、再、ハ、ラ、ウ、シ、ハ、物、を、え、て、ハ、ラ、ウ、シ、ハ、漢文、の、り、  
る、ハ、ラ、ウ、シ、ハ、物、を、え、て、ハ、ラ、ウ、シ、ハ、漢文、の、り、

ハ、ラ、ウ、シ、ハ、物、を、え、て、ハ、ラ、ウ、シ、ハ、漢文、の、り、  
ま、ま、い、と、い、ま、ま、い、と、い、ま、ま、い、と、い、  
ハ、ラ、ウ、シ、ハ、物、を、え、て、ハ、ラ、ウ、シ、ハ、漢文、の、り、  
ま、ま、い、と、い、ま、ま、い、と、い、ま、ま、い、と、い、

時代のぬき

今、人、の、文、は、時、代、の、ま、ま、い、と、い、  
良、み、の、河、を、ま、ま、い、と、い、  
近、き、世、入、河、を、ま、ま、い、と、い、  
り、ハ、ラ、ウ、シ、ハ、物、を、え、て、ハ、ラ、ウ、シ、ハ、漢文、の、り、

寛政四年壬子春發行

勢州書林

松坂日野町

柏屋兵助

二条通柳馬場東入町

林 伊兵衛

京都書林

寺町通四条上ル町

錢屋利兵衛

本居先生著述書之内板行出来

松坂 文海堂  
皇都 華箋堂

字音かかだいひ 是ハ本朝の字音の本と委細ニ論トシテ其の考ハ亦有リ 全部一冊

漢字三音考 是ハ異音漢音并唐音の考ニ論ニ附録ニ音便の格の考ニ付 全部一冊

玉銚百首 是ハ古の意と古風の奇百首と云々 全部一冊

國蹄考 是ハ國号の記といハク考トシテ其の考ニ付 全部一冊

真曆考 是ハ異國の曆法の流り来リテ其の考ハ亦有リ 全部一冊

菅笠の日記 是ハ吉野花見の時の乃記 全部二冊

言葉の玉は緒 是ハてふとの玉と委細ニ論トシテ其の考ハ亦有リ 全部七冊

てふとはは綴は 是ハてふとの定まりと綴との考ニ付 折本一冊

大教詞後釋 是ハいしの中臣後の述 全部二冊

玉は 是ハ并ニ文の詞と近世の詞と其の考ハ亦有リ 全部一冊

神代紀ら 是ハ并ニ文の詞と近世の詞と其の考ハ亦有リ 全部一冊

玉銚百首 是ハ并ニ文の詞と近世の詞と其の考ハ亦有リ 全部一冊

寛政十一年己未初秋

勢州松坂日野町

柏屋兵助

發行書林

京都三條通柳馬場東入町

錢屋利兵衛



